

春しゅん
日じつ

金子秀俊

天皇誕生日の午後のことである

私は我家へ向かう坂道を下っていた

私は驚いて

「こんにちは」と応える

二人の男の子が手をつないで坂を上って来る

一人は小学校の高学年と思われる

一人はまだ学校にあげられないぐらいの小さな子

小さい方が上を向いて大きい方の子に

けんめいに何か話している

大きい方の子はやや腰をかがめて聞いている

「兄弟ですか」

私がたずねると

「はい」

兄が答えた

二人はゆっくりと坂をのぼっていく

私とすれ違おうとする時

大きい方の子が

「こんにちは」と

突然あいさつをした

私は二人を見て思った

二人の両親はどんな人だろう

あたたかい光があふれる思いがした